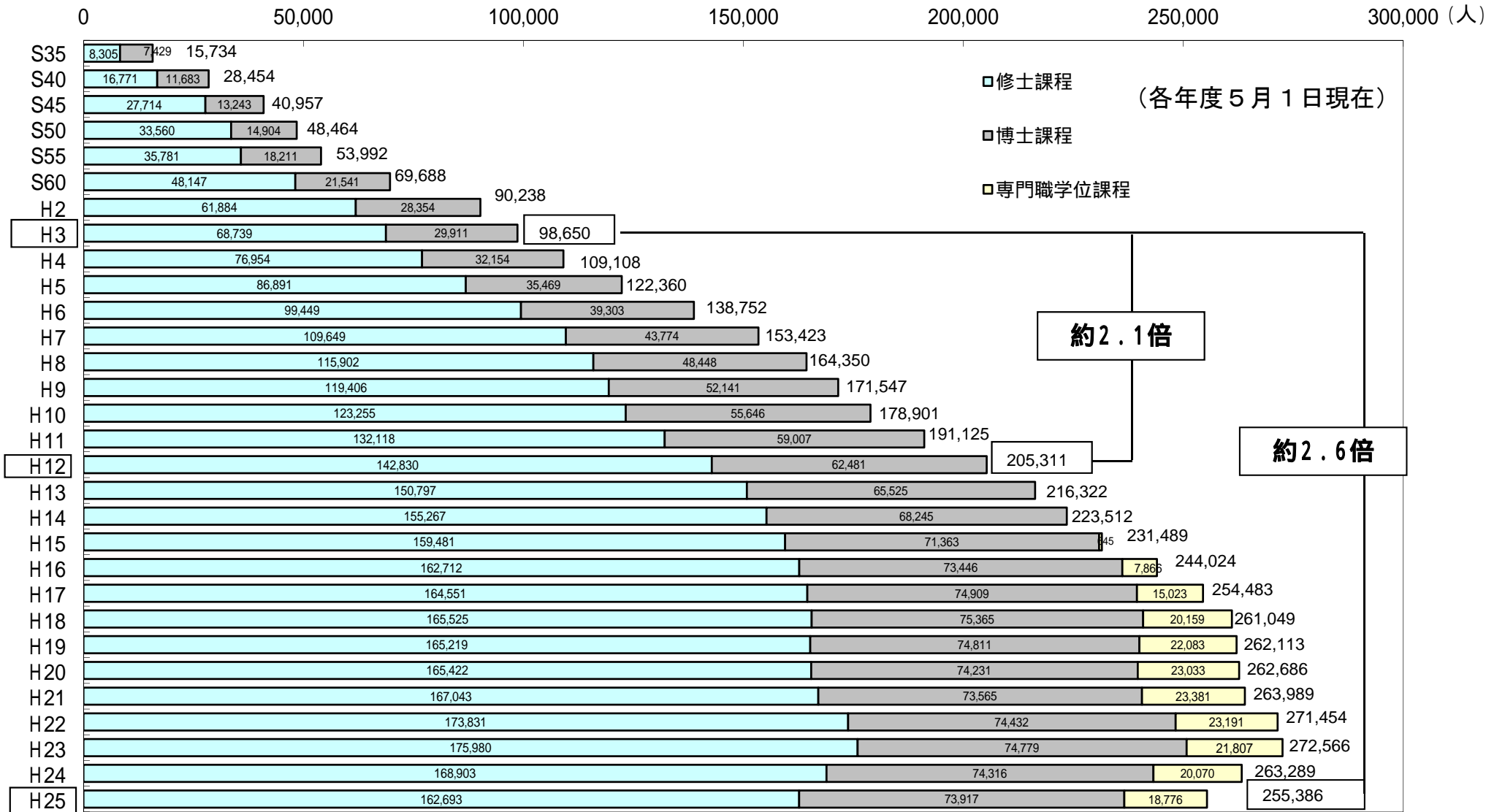


# 科学技術イノベーション人材の 育成・流動化 (関係データ)

# 図1 大学院在学者数の推移

○ 大学院在学者数は平成23年度をピークに修士課程、博士課程ともに減少。



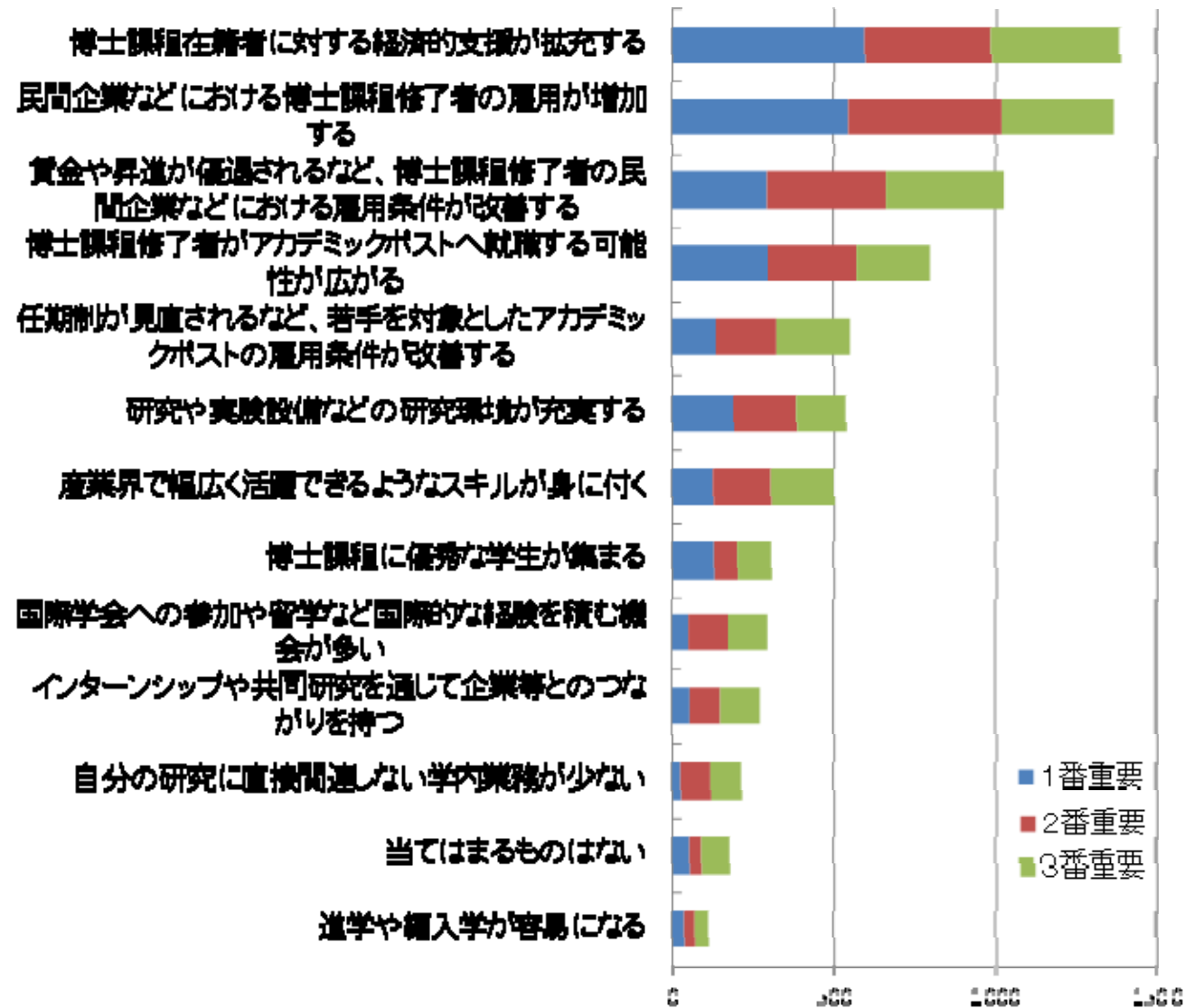
※ 在学者数

「修士課程」：修士課程，区分制博士課程（前期2年課程）及び5年一貫制博士課程（1，2年次）

「博士課程」：区分制博士課程（後期3年課程），医・歯・薬学（4年制），医歯獣医学の博士課程及び5年一貫制博士課程（3～5年次）  
通信教育を行う課程を除く

## 図2 博士課程進学への検討に重要な項目

○ 博士進学を検討する際、進学を考えるための重要な条件として、経済的支援の拡充と民間企業による博士課程修了者の雇用増加が多く選択されている。



出典：科学技術政策研究所「日本の理工系修士学生の進路決定に関する意識調査」、調査資料-165、2009

### 図3 博士課程に進学しなかった理由

○ 博士課程へ進学しなかった理由について、「将来への不安」を挙げる者が多い。



- そもそも博士課程に進学しようと思わなかった
- 博士課程進学は考えたが、進学しなかった。博士課程での教育研究が魅力的ではなかったから。
- 博士課程進学は考えたが、進学しなかった。博士課程に進むと将来に不安があると思ったから。
- 博士課程進学は考えたが、進学しなかった。進学を断念せざる得ない理由（経済的理由、周囲の反対等）があったから。
- 博士課程進学は考えたが、進学しなかった。その他。
- 不明、無回答

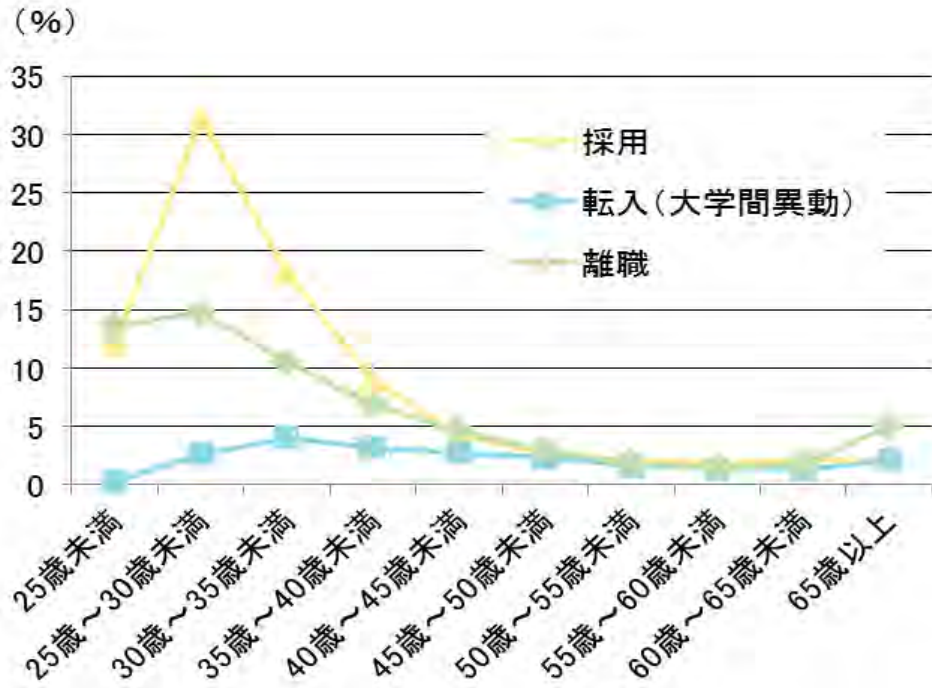
※ 修士課程修了者全体の数値にライフ系は含めていない。

出典：内閣府「高度科学技術人材育成強化策検討のための基礎的調査」（平成22年3月）

# 図4 大学及び公的研究機関の研究者の状況

- 大学本務教員の異動者数の割合については、25～30歳未満をピークに年齢が上がるにつれて減少。若手教員の流動性は高いが、シニア教員の流動性は低い。
- 大学、独立行政法人等において、若手の任期付き割合が多い。

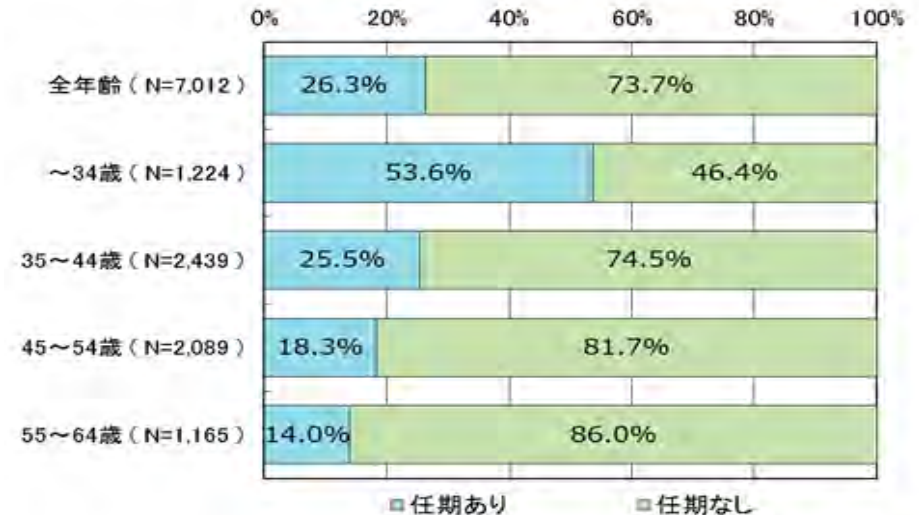
大学本務教員の異動状況



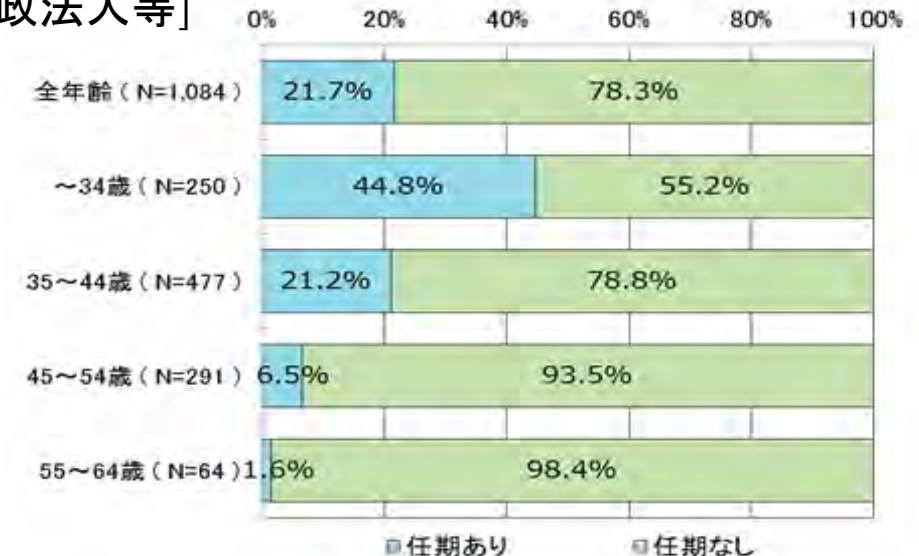
※ 採用については新規採用、離職については定年・死亡を除く  
 出典：「学校教員統計調査」（平成22年度）を基に文部科学省作成

年齢層別任期制適用割合

[大学]



[独立行政法人等]



出典：科学技術政策研究所「科学技術人材に関する調査」（平成21年3月）